

麻生区区民会議 第9回 若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成25年6月11日（火）午後6時00分～午後8時30分
- 2 開催場所：麻生区役所第5会議室
- 3 出席者：[専門部会委員]
石井委員、金光委員、菅野委員、菅原委員、高橋慶子委員、高橋庸之委員、東川委員、矢野委員、山田委員
(欠席) 武濤委員
[事務局]
鈴木企画課長、白石、藤江、桑原
- 4 傍聴者 1名
- 5 議事
 - (1) 企画部会からの報告事項
金光委員より、企画部会での協議事項について報告があった。
【説明事項】
 - ・「安全・安心のまちづくり部会」では、モデル事業の基本的な方向性が固まり、村主部会長が、モデル地区選定のため町会連合会に説明を行った。結論として、①事業案内から実施までの期間が短いこと、②モデル地区希望申請をしても選定されない場合がある（1地区の選定のみのため）ことから受け入れていただけなかった。
⇒モデル地区選定にあたっては地域振興課と企画課で再検討中。
 - ・区民会議フォーラムについては、講師選定中であり、目黒先生（東京大学教授）には受諾いただいた。園田先生（明治大学教授）は回答待ちである。講演は各50分、質疑応答が10分である。当日の役割分担について、当部会後半に協議したい。
 - ・第3回「麻生区区民会議ニュース」について、「若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会」の内容については、次の方向性が定めれば掲載、決まらなければ2月全体会で発表した内容を掲載する。
 - (2) 調査審議課題等について
 - ①「芸術・文化のまちづくり」
○芸術・文化関連団体等へのヒアリング実施状況について
各ヒアリング担当者より、資料2「芸術・文化のまちづくりに関するヒアリング報告（個別）」をもとに報告があった。
【報告事項】
ヒアリングで各団体から聞いた主な意見など
 - ・第3期提言を具体化すれば芸術のまちの実現につながる

- ・文化担当官は行政でなくボランティアが担った方が。例えば、21ホールのNPO川崎アーツを活用してもよいのではという提案も有った。
- ・文化芸術専門コンシェルジュ（文化担当官）の機能をもった人が必要
- ・文化担当官は昔の市民館にいた社会教育主事のようなイメージ
- ・しんゆり芸術のまちづくりフォーラムがもっと機能していけば文化会議（仮称）となり得る
- ・新百合ヶ丘の北口駅前からアートセンターまでの道に沿ってのぼり旗などを掲げてアートセンターがどこかわかるようにし、にぎわいを作る。ただし、景観を守る規則に基づいた質のいい掲示物にして欲しい。
- ・文化芸術家の人たちがつながり力を合わせて、新百合ヶ丘の駅周辺でいつも何か行われているようなまちづくりを目指していく
- ・麻生文化協会は、今年の夏休みに昭和音楽大学の協力で子どもたちが楽器体験等できる講座を開催する
- ・夏休みにアルテリッカの子供版ができればよい
- ・アルテリッカでももっと大学生など若者の発想を取り入れた企画を行ってほしい
- ・渋谷、原宿をみればなぜ若者が集まるかわかる。それを真似はせずとも良いところは取り入れていくことが大切である。
- ・川崎だけでなく広く国際的にも門戸を開けていけるグローバルな戦略が必要では
- ・練習場所や活動場所の確保に苦勞する団体が多く、市民館も部屋数も少なく、展示スペースも狭く、更に老朽化進むなど改善すべき点が多々ある
- ・音楽のまちを標ぼうしている割には、防音機能のついた練習場所や500席規模の音楽ホールがない
- ・アートセンター3階のコラボレーションスペースをもっと開放して登録した団体が優先して使えるように
- ・市民合唱団等の団体は自分たちが趣味で集まって活動しているので、他団体とのタイアップは比較的困難。ただ、文化会議（仮称）で年1、2回の横のつながりをもつことは必要
- ・新百合ヶ丘は町田から新宿への電車の通過点になっており、立ち寄るイメージがあまりない

○市の芸術・文化行政へのヒアリング実施について

部会長より、資料3「市の芸術・文化行政へのヒアリング実施（案）」をもとに、説明があった。

【主な意見】

- ・「しんゆり・芸術のまちづくりフォーラム」へのヒアリングは実施しないのか。
⇒フォーラムは今後のあり方を検討している段階であり、今ヒアリングを行うのは難しいのでは。順番として、まずは地域振興課に麻生区の芸術のまちづくりの現状をヒアリングしてはどうか。
- ・「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラム自体、今後どうなっていくか。フォーラム構成メンバーは本業が別にあるため、組織としてどうなのか。事務局やプロデューサ

一的な存在が必要なのではないか。

・行政で「芸術のまちづくり」を標榜しているが、一人歩きしている。駅構内に「アルテリッカ」の広告を出せない、情報発信が遅いなど、問題点はたくさんある。

②「子育てしやすい環境づくり」課題解決に向けた取組みについて

○子育て支援グループ等へのヒアリング実施状況について

各ヒアリング担当者より、資料5「子育て支援グループ等ヒアリング結果（個別）」をもとに報告があった。

【報告事項】

ヒアリングで各団体から聞いた主な意見など

- ・地域子育て支援センター「みなみゆりがおか」の充実した施設はうらやましい
- ・地域で期待している施設としてあがったのは稲城市の若葉台の施設であった。
- ・プレーパークを作りたい。そのための法整備ができていない
- ・母親が子育ての不安を払しょくする場となっている
- ・親支援に力点を置いており、日頃の苦勞を開放することや、親の気持ちに寄り添うようにしている。
- ・障がいを持つ児童が増えるとともに多様化しているため、早くから指導・支援が必要な子どもが増えている。医療センターの民営化の話があり、先行き不安である。
- ・イクメンも増えているが、まだまだ父親の関心が弱い。
- ・ボランティアの活動場所や研修や会議の開催場所がない。

○今後の取り組みの展開について

【主な意見】

（子育て支援の対象）

- ・今回ヒアリングを行った対象は、専業主婦が多く、ワーキングマザーや一人親など、境遇の異なる対象についても把握する必要があるのではないか。待機児童対策も必要である。
⇒対象は絞った方が良い。
- ・横浜は待機児童ゼロに成功したが、それと同じことを目指すのでは麻生区の魅力や特徴を打ち出せない。麻生区の魅力として、待機児童ゼロだけではなく、子育てにおいて「たくさんのメニューがあり、選べる」ということを打ち出してはどうか。例えば、地域で完璧な一時保育（預かり）、病児保育ができる、など。また、「北部療育センター」という養護施設があるのは市内で麻生区のみであり、これは強みである。健常児、障がい児、どんな子どもでも安心して育てられる、そんな方向性はどうか。
- ・社協では一時預かりのサービスを展開しているが、なかなか広まらない。無料にしていると逆に断られるということが起きている。
⇒社協はもっとメニューを自治会など地域全体でやっていくような方向性なら広まるのではないか。
- ・子育てに関わる課題把握等のため、区の子ども支援室へのヒアリングをしても良いのではないか。

(3) その他

※第1回区民会議フォーラムの役割分担は次の通りとする。

- ①受付：高橋（庸）委員、矢野委員
- ②会場案内：山田委員、東川委員、菅野委員
- ③タイムキーパー・マイク係：会場案内係が兼務

※今後の進め方について、意見のある委員は事務局に連絡する。

以上